

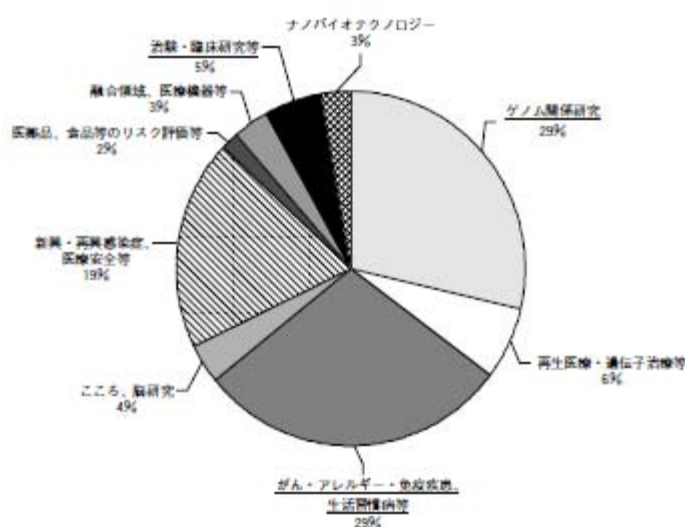
5 その他参考資料

今回の調査項目に含まれていないトピックスの中で、各国との差が顕著に現れていたデータを以下に示す。これらの項目と、重点項目を併せて分析することで、日本の治験に関わる隘路が浮き彫りになるかもしれない。

予算

ライフサイエンスは、21世紀の科学技術政策の中で、最も重要な分野のひとつとして位置付けられている。ここでは、政府科学技術予算について、予算編成の進め方と配分、およびライフサイエンス分野の重点施策という側面から、日米英3か国の現状を比較して紹介する^{29,30}。

日本



左図は科学技術関係施策について総合科学技術会議で優先順位付けが行われた健康・医療関係プロジェクトを研究領域別に分類したものである。基礎研究から臨床研究の展開に重点を置いた「治験・臨床研究等」に5%程度の予算が配分されており、約32億円である。

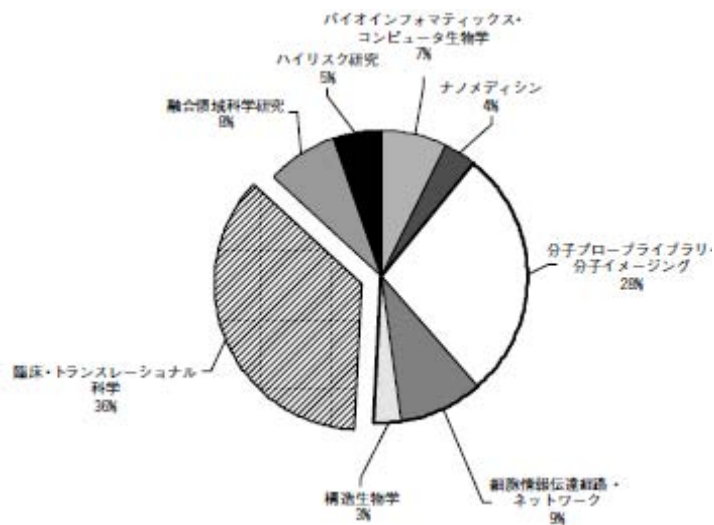
²⁹総合科学技術会議（第51回）議事次第 資料2-2 優先順位付けを実施した科学技術関係施策の平成18年度予算案について(PDF)

<http://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihu51/siryo2-2.pdf>

³⁰医薬産業政策研究所 政策研ニュース No.21

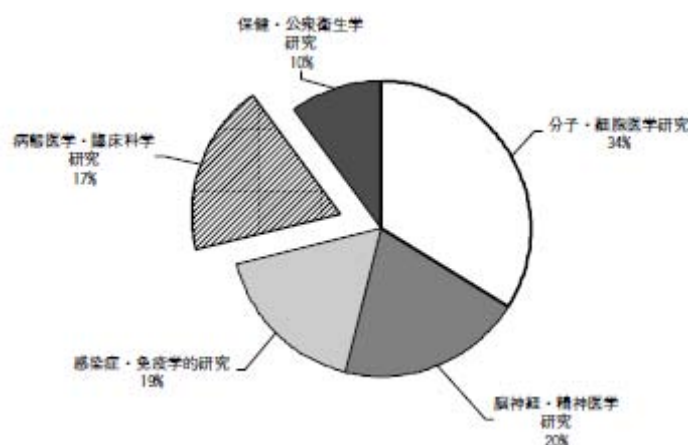
<http://www.jpma.or.jp/opir/news/news-21.pdf>

米国



左図はNIH Roadmap by initiative NIH76をもとに作成した、NIH ロードマップ2006年予算である。基礎研究から臨床研究の展開に重点を置いた「臨床とトランスレーショナル・リサーチ」に36%と高い比率の予算が配分されていて、約2億ドルにのぼる。

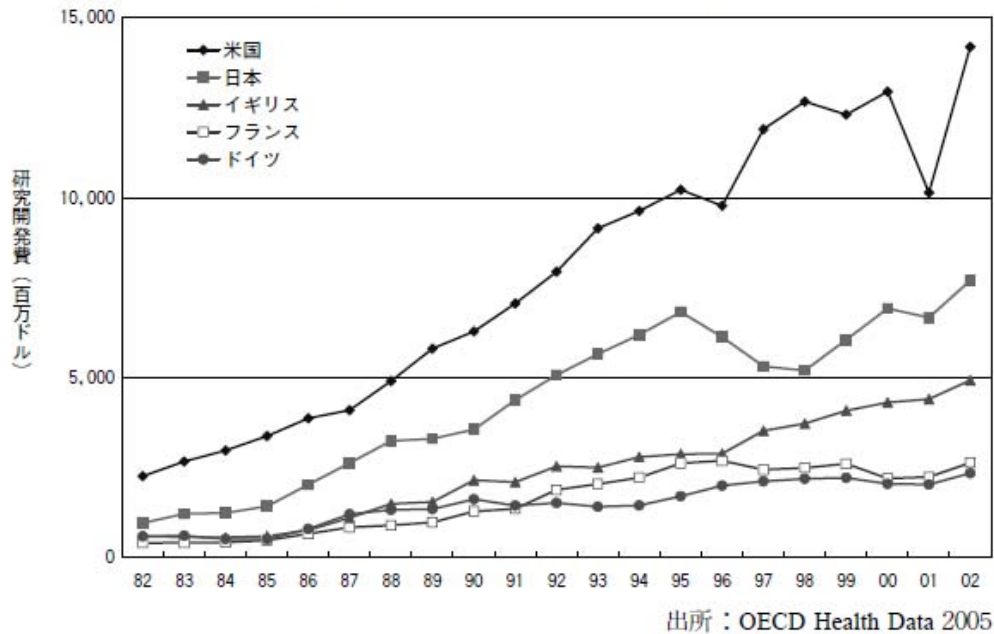
イギリス



左図はMRC (Medical Research Council: 医学研究会議) の総支出(約5.1億ポンド)の内訳を示している。臨床研究に係る「病態医学と臨床科学」に19%の予算配分がされていて、約1億ポンドである。

上記3国の予算を比較すると、米、イギリスの予算が大体200億円程度であるのに対し、日本の予算は1/5に満たない。国の予算支援の面で、日本は米、イギリスに遅れをとっていると考えられる。

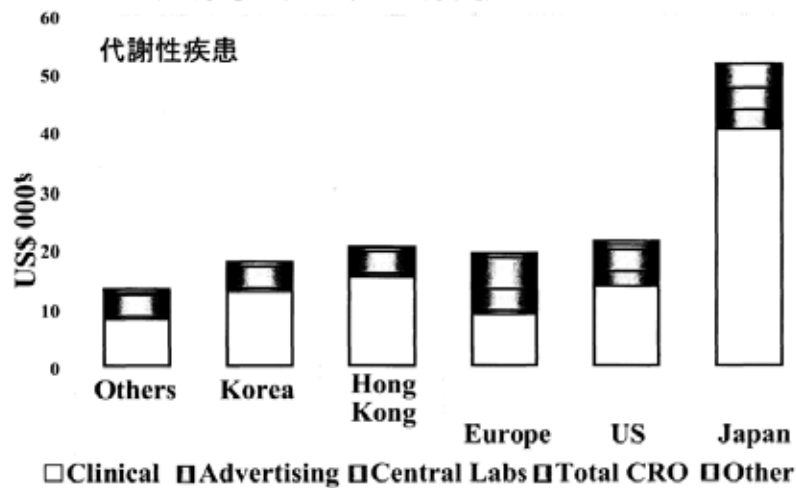
図2 主要国における製薬産業の研究開発費



【出典】政策研ニュース No.18：平成 17 年 10 月発行

<http://www.jpma.or.jp/opir/news/news-18.pdf>

1 症例当たりの治験コストの違い



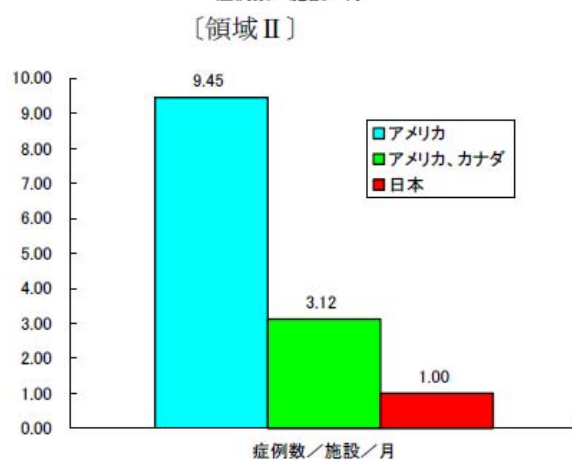
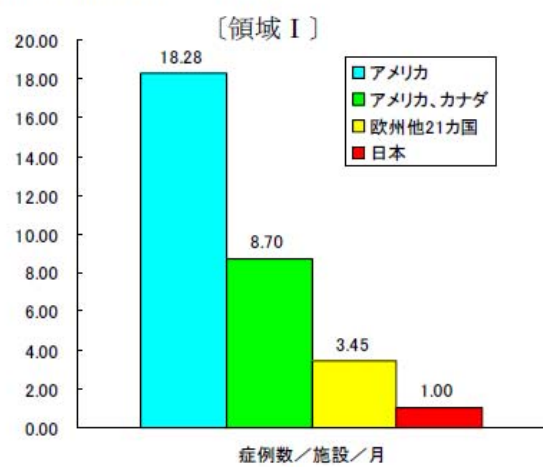
島谷克義：第3回北里ハーバードシンポジウム、2003

【出典】独立行政法人 福祉医療機構

<http://www.wam.go.jp/wamappl/bb13GS40.nsf/0/a0110436e766ca8f49256>

[fee0006c639/\\$FILE/siryou1~4.pdf](http://www.wam.go.jp/wamappl/bb13GS40.nsf/0/a0110436e766ca8f49256fee0006c639/$FILE/siryou1~4.pdf)

ある企業の海外と日本の治験スピード比較



日本製薬工業協会

【出典】 厚生労働省資料

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/04/dl/h0409-1g.pdf>